******あなたの町の情報誌* * * *

日本ステンレス工業株式会社

発行/日本ステンレス工業株式会社 〒409-0617 山梨県大月市猿橋町殿上630-1 電話=0554-22-2500 FAX=0554-22-5234

Vol.120 2009



里村真木九六二番地、現

一月十六日に北都留郡廣

なったものはいない。

四

る当時のアルバムには、

いが、その事実を証明す

勿論昌平の同期で大将に

平井昌平は明治三十年

物] 平 伝

> う勧めもあり、東京在住 麻布中学(現在の麻布高 舎にいても明るい未来は の兄の元に身を寄せて、 開けない。上京して勉学 株式会社常務)より に励んだら如何か」と言 兄の喜則 (元大日本精糖 沢で、父保太郎・母いち 高等小学校を卒業後、長 の四男として生まれた。 在の大月市大月町真木前 真木尋常小学校、廣里 田田

> > 調な昇進をしている。 和 中尉十三年に大尉と、 翌年少尉となり、十年に 兵学校を卒業した昌平は である。大正七年に海軍 十六期生で少将まで昇進 した山梨県人は昌平一人 一年には元帥大将井上 順 昭

への畏敬』であり、

業軍人でありながら、 職 彼

従って海軍は戦争には反

海軍上層部に進言した。

て演習に参加している。 員 は統監陛下並中央審判部 年昭和天皇が初めて海軍 良馨の副官となる。この 又昌平は三年間ロシア 大演習を統裁し、昌平 (天皇陛下直属) とし

を選んだ。海軍兵学校四

十六期生である。同期

多く、昌平は海軍への道

軍兵学校へ進学する者が

秀者は、東京帝国大か海

当時麻布中学の成績優

校)に入学する。

認する資料は残っていな 代に、 だったようである。 昌平は昭和九年少佐時 海軍の特命を受け

誠に絵になっていたとか。

昭和十五年に呉の海軍

顔を忘れる事が出来な

執筆者

小俣

早苗

最後の大将は三十七期生

が何年頃であったかを確

に留学しているが、それ

の井上成美であるから、

将になっている。海軍の

ち三名が戦死して特進中

たものは二十三名で、う

のうち現役で将官になっ

入学者は百二十四名、こ

ら伝わってくるのは『平 ナップ写真の横に、 ロシア語の先生や、当時 されていた。その短文か 言二言のコメントが記 住民との和やかなス 必ず

である。

上層部より、

が常に平和を願っていた 彼はかなり英語も得意 は必修科目であったから、 はロシア語も堪能であっ 事が窺えるのである。そ た。海軍はもともと英語 の留学の経験があって彼 が出来ずに、太平洋戦争 対だったが、政治的に力 になったのである。 は不幸な結果を招く羽目 の開戦強硬派を抑える事 の弱かった海軍は、

容姿端麗な彼の乗馬姿は 話もある。駅に降り立 家を訪れる事があったが で颯爽と帰省するのだが た昌平は、用意された馬 小旗で出迎えたという逸 大月駅の職員が日の丸の 大月の駅に降り立つ彼を 昌平は時折お忍びで生

別の信頼を得ていた証拠 あった。それは彼が海軍 情を偵察するのが目的で て二年間アメリカに出張 している。アメリカの実 人間的な特 戦争は負ける。覚悟して 親族だけを呼び、 で帰省した事があった。 昭和十七年に突然お忍び その時彼は、極々身近な 工廠に配属された昌平が、 この

がる村人に対しては、 あるから、戦況を聞きた だ静かに微笑を返すだけ

た

戦争しても絶対に勝てな

い』という報告にまとめ

果を『こんな先進大国と

昌平は二年間の偵察結

勿論それは極秘の内容で

置くように』と言った。

生簀で釣りをする。夜は 鯉を放す。帰省した昌平 笹子川に生簀を作り池の 昌は、村人の手を借りて 知らせを受けると、平井 は日柄一日その笹子川 家の十二代当主である保 だった。 昌平が帰省するという

陸軍

を去った。

の昌平の憂いに満ちた横 昌平の釣った鯉で鯉こく で釣りをした。四歳の幼 保昌の孫娘を連れて生簀 そうだった。 れた。昭和十九年の夏も い女の子は今も、その時 突然帰省した昌平は、 村人に振舞 寺の墓で眠っている。 する逸話もある。 今大月町真木前沢の善福 る。

が作られ、

と言う。

過ごし、昭和二十九年四 5 英語が堪能であった事か た。 た。 とって戦後処理に当たっ 少将となっていた昌平は 月三日五十七歳でこの ら、予備役として数年を に引き渡す陣頭指揮を 部長として、呉港を米軍 呉海軍工廠の最後の総務 昭和二十年八月、海軍 戦後は、ロシア語と 呉市で通訳をしなが 時に四十八歳であっ

キーも得意で、水泳に関 続けた彼は、水泳もス を嫌い常に平和を切望し を果たしながらも、 職業軍人としての責務 争

昭和を生きた平井昌平は 郡内では彼が唯一人であ 体でも数人しかいないが 人として、明治・大正 海軍の将官は山梨県全 平和を愛する職業軍